

① 探究のための問いをつくる（15分）

とある研究によると、2～5歳の子どもが大人と会話する際、平均して1時間で107回もの問いかけをします。そしてこれは小学校入学前後をピークとして次第に減っていきってしまうこともわかっています。探究の授業では、知識を蓄積してだけでなく、自分の関心や社会にとって重要な問題を正確に把握していくことが求められます。ここでは疑問を出すという行為が学習活動となります。プレ探究活動初回の取り組みは、グループごとの問い作りです。各グループのカテゴリを基本に

今後班として探究していきたいテーマを問いの形で表現してください。その際、以下のルールに基づき、できるだけ多くの問いを下記の表の①の部分にまとめましょう。

4つのルール

- ・できるだけ多くの問いを出す
- ・問いに対して、話し合ったり、評価したり、答えを言ったりしない
- ・発言したとおりに書き出す
- ・肯定文として発されたものは疑問形に転換する



班のうち誰か一人が発言を書き留めてね

	③	① メンバーで問いを出してみる ↓ ↓ ↓	③	② 問いを変換してみる ↓ ↓ ↓
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

頑張れ！頑張れ！



20個出せるかな



② 問いを変換する（10分）

探究基礎では前期のうちに、「論題（目的）および仮説の設定」というテーマで学習と演習を行いました。当時のプリント等を参考にしながら、更に問いを考えてみてください。その際、クローズド・クエスチョンとオープン・クエスチョンという観点から、①に書き出した問いをそれぞれ変換してみてください。又ビリヤード法も参考にしてみてください。

③ 問いに優先順位をつける（20分）

書き出された問いを再度、眺めてみましょう。そして自分が重要だと思う問いをメンバーごとに3つほど選び、メンバー相互に意見交換してみましょう。なぜその問いが重要と感じたか、自分の意見とともに話してみること。最終的に班として重要だと思う問いベスト3を決定し、上記の③の欄に「1」、「2」、「3」の数字で示してみてください。

本日の参加メンバー	欠席者
-----------	-----